

14 特別支援学校ってどんなところ？

以前、盲学校、ろう学校、養護学校と区別されていた学校です。基本的には、障害の種類（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱、知的障害）ごとに分かれています。幼稚部が併設されている特別支援学校（視覚障害、聴覚障害）もあります。多くの学校は、小学部、中学部、高等部の学部が設置されています。

静岡市内の特別支援学校については、静岡県教育委員会のホームページを参照してください。

どんな勉強をしますか？

知的障害のある子ども以外は、通常の学校に準ずる教科や領域を学習し、その他に障害に基づく困難の改善を目的とした自立活動の時間があります。知的障害のある子どもの場合は、基本的な教科の学習（国語、算数・数学、音楽、体育、図工・美術、家庭科など）のほかに、障害の特性に応じた各教科等を合わせた学習（日常生活の指導、生活単元学習、作業学習など）があります。

通常の学校とのかかわりがありますか？

「交流及び共同学習」という呼び方で、地域の学校や居住地学区の学校とのかかわりがあります。他にも地域の人たちとの交流活動も取り入れています。

体験談 (知的障害の支援学校について)



各クラスの人数が少なく、先生が多く手厚い
(低学年7人から8人に対して先生3人)

体調やこだわりなど、子供ごとに合った対応を必要に応じてしてもらえるので安心できる。

障がいやこだわり等で通常ではなかなか難しい校外学習（泊まりでのキャンプや修学旅行など）を友達と共に経験することが出来る。

徒競走を見て、ちゃんと走っていたなと思っていたが、先生から「スタート位置からいなくならず頑張っていました」と予想外のところを褒められ、「そこなんだ…」と学ぶ。

同じ悩みを持つ保護者と情報交換ができ、前向きになりました。生活訓練になる授業があり、普段の生活や卒業後の就労に役立つことが学べました。

中1から、バス通学練習をしました。意外なことに、乗り換えもあるのですが、母親が数回付き添いで、自力でできるようになりました。もちろん、安全のために、位置情報付きの携帯を持たせています。

特性ゆえに、新しい場所や活動は苦手ですが、事前に旅程を文字（ひらがな）で見せて、かつ、行き先観光地などのホームページの写真を見せるなどして、見通しを持てるように工夫しました。

修学旅行後、休憩場所ごとにトイレに行くよう指導されていたこともあってか、やはり必要以上にトイレに行くようになりました。

ゼロか100かの捉え方の特性から、本人自身、臨機応変に調整するのが難しいようです。

細かい教育支援計画の面談を通して、子供が高等部卒業後の夢や仕事、生活等に近づくような指導をしてもらえる。

高等部では、就職するまでのサポートが素晴らしい。高等部一年生より企業やA型・B型、生活介護等の実習体験があり、高等部3年生までに何か所か経験することが出来る。そのため、子供により合った就職を選ぶことが出来る。また、実習は就職するまでしっかり面倒をみてもらえる。

家で、よく特定の名前が出てきました。男子、女子、どちらでも当てはまる名前だったため確認すると、女の子の名前だと判明。

高校卒業式の日、校門の前で撮影会となった時、ちらちらある子を見ながら名前を言っているの、例の女の子と分かり、母が声掛けしてツーショット写真を撮ってもらいました。甘酸っぱい！

